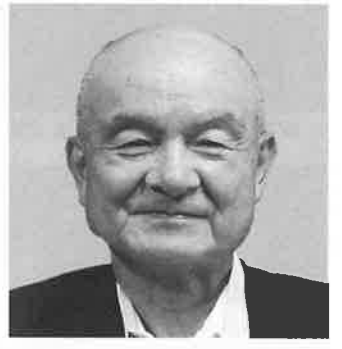


大手ファブ  
トップインタビュー⑥

2018年  
わが社の  
経営戦略

川岸工業



金本 秀雄社長

現在の取り巻く業界環境をどうみているか。金本 この数年、500万ト超の鉄骨需要が継続しているが、来年に向けてもそれなりの需要があるのではないか。当社は、国内に5工場を保有し、年間合計7万2000トの鉄骨を生産している。物件に応じて各工場に振り分ける体制で製作しており、西日本の3工場と東京の第三工場はコラム・H構造を、また、東京第一工場(生産能力年間3万ト)は超高層の4面ボックスやパイプ構造などを主体として生産している。首都圏の鉄骨需要は旺盛だが、東京での工場生産量は限られており、一部月500ト程度を西日本で製作している。西日本も自治体関連や工場増築の仕事が多いことから、西日本の需要が低調ということではない。今後も各工場との連携を深め、しっかりとした生産計画を進めていきたい。

製作しており、西日本の3工場と東京の第三工場はコラム・H構造を、また、東京第一工場(生産能力年間3万ト)は超高層の4面ボックスやパイプ構造などを主体として生産している。首都圏の鉄骨需要は旺盛だが、東京での工場生産量は限られており、一部月500ト程度を西日本で製作している。西日本も自治体関連や工場増築の仕事が多いことから、西日本の需要が低調ということではない。今後も各工場との連携を深め、しっかりとした生産計画を進めていきたい。

数値的には確保できる見込みだ。来期は受注量の関係から売上げ、経常利益とも若干減少する可能性はある。当社は自社の責任生産体制を敷いており、基本的に外注はしない。また、量を追う考えはなく、そのような時代でもない。企業として利益追求は当然だが、5年、10年先の社への進むべき道を想定して、安全を含む品質の維持のほか、難易度の高い要求品質にこたえられる技術力、客先への信頼性を高めていく努力が最も重要だと考えている。

第一工場など大幅な投資計画を実施  
技術力、信頼性を高める努力が重要

金本 当社は9月決算だが、今期の通期予想で完成工事高250億円、営業利益29億円、経常利益30億円を見込んでいる。設備投資の計画は、

金本 第一工場の4面ボックス製造ラインの増設や溶接ロボットの導入などの整備は昨年、完了した。今秋に超高層物件の端境期入りを迎えるものと予想されるが、そのタイミングで第一工場を中心に大幅な投資計画を実施する。55年が経過しており、設備、ライン、人を大幅に見直したい。先述の「5年、10年先の社への進むべき道」の具体化を見据えている。

また、建設・建築業界全体の人材不足は極めて深刻で、いずれ近い将来、それによる廃業や倒産が当たり前になってくるのではないかと。それを補うためには設備導入による省人化、生産効率を向上させ、働き方改革を見据えて作業時間を減らすしかない。口で述べるほど簡単ではないが、タイミングとしては今しかない。

金本 人材確保の対策として、特に溶接工については外国人研修制度を導入している。フィリピン人を採用しているが、研修期間終了で一度帰国、再入国という検討も進めている。専用の寄宿舎を設け滞在中の精神的なメンテナンスにも配慮し、関連資格取得の教育のほか生活指導も行っている。

金本 第一工場では現在、4面ボックスで極厚1000mmのサブマージ溶接の多層盛の溶接条件について、JFEスチールなどと共同で実験している。鉄骨建設業協会の技術発表会や建築学会でもその成果を発表する予定だ。

金本 外国人研修制度について。

金本 60歳前後の熟練工の在職中に次の世代へ技術の伝承をしっかりと行う必要がある。職種のいわれわれが製造業である以上、工場内の作業員を恒久的に抱えなければならず、技術の温存の観点から職長を中心に物づくりの技術や品質、工程などを次世代にしっかりと伝承していかなければならない。

金本 抱負を。金本 足元を見据えて、5、10年先の鉄骨製造拠点を構築することが私の責任だと考えている。また、物づくりに対するロマンや喜び、そして誇りを若い世代に実感させる環境を整備することも大切だと考えている。(聞き手 大熊稔、文中・敬称略)

金本 第一工場では現在、4面ボックスで極厚1000mmのサブマージ溶接の多層盛の溶接条件について、JFEスチールなどと共同で実験している。鉄骨建設業協会の技術発表会や建築学会でもその成果を発表する予定だ。

金本 外国人研修制度について。

金本 人材確保の対策として、特に溶接工については外国人研修制度を導入している。フィリピン人を採用しているが、研修期間終了で一度帰国、再入国という検討も進めている。専用の寄宿舎を設け滞在中の精神的なメンテナンスにも配慮し、関連資格取得の教育のほか生活指導も行っている。

金本 抱負を。金本 足元を見据えて、5、10年先の鉄骨製造拠点を構築することが私の責任だと考えている。また、物づくりに対するロマンや喜び、そして誇りを若い世代に実感させる環境を整備することも大切だと考えている。(聞き手 大熊稔、文中・敬称略)